

環境教育関係事業について

1 はじめに

本市では、「札幌市環境教育・環境学習基本方針」（以下「本方針」という。）に基づき、環境教育・環境学習の取組を推進しています。

誰もが、これからもずっと安心して暮らしていくためには、一人一人が身近な環境について真剣に考えて、行動する必要があります。本方針は、今のことだけではなく未来のことも想像し、自分のことだけではなく周りにいるみんなのことを思い、そして、生き物同士のつながりなどの地球環境のことを真面目に考えて、やるべきことを自ら判断し、積極的に取り組む「環境市民」を、学びを通して増やすことを基本理念としています。

本方針の第4章には、人々が環境問題を理解し、環境保全の行動を進め、さらに多くの人に行動が広がるよう、札幌市が主体となって推進する四つの取組として「(1)学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進」、「(2)「環境人材」の育成」、「(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実」、「(4)普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」が示されています。

本資料では、環境局環境都市推進部環境政策課等が行う環境教育関係事業に係る令和3年度の実施状況及び令和4年度の実施予定について、これら四つの取組に沿って報告します。

札幌市が主体となって推進する環境教育・環境学習に関する取り組み

札幌市環境教育・環境学習基本方針で定めた4つの取り組み

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
- (2) 「環境人材」の育成
- (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
- (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

2 令和3年度実施状況及び令和4年度の実施予定について

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

ア 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2カ年にわたって利用いただいています。また、併せて教師用手引書も作成しています。

より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」「特別な教科 道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織して毎年度、改訂作業を行っています。

イ 環境教育へのクリック募金

インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、協力企業（現在は7社）の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額を協力企業からご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入し、希望する小中学校へ寄贈しています。

令和3年度は、計41校に、手回し発電機、ガス検知管、顕微鏡、野菜苗などを寄贈しました。

今年度は、計40校から希望があり、同様に寄贈を予定しております。

なお、クリック募金のホームページ上には、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたのかを「事業報告書」として紹介しています。

ウ エコライフレポート

子どもたちが声掛け役となって、家庭におけるエコ行動を促す取組として、平成19年度にスタートした事業です。

夏休み及び冬休みの前に、市立小中学校の全児童・生徒に対して、家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配布します。

令和3年度は、札幌市が市内の温室効果ガス排出を2050年に実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を宣言したことを踏まえて、「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズとして、気候変動について学びながら、節電や地産地消などに取り組んでもらう内容としました。また、小学4年

生以上には自らエコにつながると思う行動を考えて記入し、実践してもらう欄も新たに設けました。

また、学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算し、これを記した「認定証」を配布しており、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中でユニークなものについては、認定証の中に「他にもこんな取組をしてくれました」という欄を設けて紹介しています。

なお、エコライフレポートは、昨年8月、イクレイ（※）の国際版に日本のユニークな活動の一つとして取り上げられました。英語では、「Eco-Life checklist」として紹介されています。

また、夏休みに民間団体の主催で、オンライン開催された子どもをターゲットとする環境イベント「エコチルまつり」において、エコライフレポートに関するブース出展を行い、エコライフレポートの取組方法やエコ行動の事例紹介など、札幌市の取組を周知しました。

※ イクレイ：「持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会」（International Council for Local Environmental Initiatives）

持続可能な社会の実現を目指す1,750以上の自治体で構成された国際ネットワーク

今年度からは、紙のエコライフレポート提出用紙を各学校で回収・保管し、それを環境局において集約・集計するという一連の事務作業の負担を軽減するため、教育委員会と協議を行い、ウェブアプリケーション「Google フォーム」を使用した取組後のふりかえり用の入力シートを新たに作成し、夏休み及び冬休みの後、各児童・生徒にタブレットから当該シートに取組結果を入力してもらう形式に変更することとしました。

児童・生徒の取組状況

年度	取組学校数[校]		児童・生徒数 [人]		取組人数 [人]		取組率 [%]	
	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬
平成 29 年度	301	301	133,796	134,070	127,614	126,380	95.4	94.3
平成 30 年度	301	300	133,230	133,419	126,654	124,161	95.1	93.1
令和元年度	299	298	132,935	133,038	126,859	124,282	95.4	93.4
令和 2 年度	295	298	132,842	133,133	124,874	124,977	94.0	93.9
令和 3 年度	296	296	133,335	133,335	125,221	123,329	93.9	92.5

※令和2年度、新型コロナウイルス感染症の影響で取組学校数が減少

子どもたちによる CO₂削減量

年度	CO ₂ 削減量 [ton-CO ₂]	
	夏	冬
平成 29 年度	1,035	1,236
平成 30 年度	1,484	3,204
令和元年度	1,541	3,113
令和 2 年度	1,478	3,051
令和 3 年度	673	1,806

子どもたちによる独自取組（抜粋）

- ・電気をこまめに消す、嫌いなものでも残さず食べる（低学年）
- ・エコバッグを持ち歩く、友達のリサイクルを全力で止める（高学年）
- ・家庭で植物を植える、カーボンニュートラルについて勉強する（中学生）

※ 数値は児童・生徒たちの取組チェック項目からの 1 カ月の推計値

※ 昨年度は、子どもたちが独自に取組を考えて実施する要素を取り入れた一方、選択式の取組項目数を小学校高学年以上では、これまでの 10 項目から 6 項目に減らしました。

独自の取組項目については、一つ一つを削減量に換算することが技術的に難しかったため、結果として、上記の CO₂ 削減量は昨年度に比べ数値的に減少しましたが、子どもたちが自らアイデアや工夫を凝らして取り組んだことは、数値には表れない成果と考えています。

エ 校外学習用バス貸出

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に校外学習用バスの貸出事業を行っています。

学校現場のニーズなどを踏まえ、平成 28 年度から市外近郊や民間施設も見学対象施設に加えて、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを見学コースに組み込んでいるほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しています。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、児童・生徒が座席間隔を空けて乗車できるよう 1 校あたりの貸出台数を増やしたうえ、申込のあった全学校で実施しました。

今年度についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮のもと、貸出期間を 10 月 1 日から 11 月 30 日までとして事業を実施する予定です（利用予定校は調整中）。

[バス貸出実績推移]

	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度
応募校数	52 校	49 校	46 校	—	29 校
利用校数	52 校	49 校	46 校	—	29 校
バス利用台数	110 台	98 台	96 台	—	94 台

※ 校数・バス利用台数は延べ数。

※ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

＜主な見学先（令和３年度）＞

見学先	見学校数（延べ）
白石清掃工場	５校
北海道博物館	５校
円山動物園	５校
アイヌ文化交流センター	３校
下水道科学館	３校
モエレ沼公園	３校
開拓の村	３校
定山溪自然の村	３校
中沼リサイクル団地	３校

オ 学校での出前講座の実施

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市職員が依頼に基づいて地域に出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う「出前講座」を実施しています。

近年は、SDGs の普及や地球温暖化・気候変動への関心の高まりにより、これらの講座への依頼が増えており、総合学習などの授業の一環として活用されています。

【SDGs、地球温暖化・気候変動に係る出前講座・授業等実績】

	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度
小学校：件数 （参加人数）	2 件 （108 人）	6 件 （438 人）	4 件 （368 人）	2 件 （180 人）	5 件 （351 人）
中学校：件数 （参加人数）	1 件 （16 人）	1 件 （18 人）	2 件 （59 人）	6 件 （1,033 人）	8 件 （1,202 人）
高等学校：件数 （参加人数）	—	1 件 （30 人）	9 件 （1,572 人）	2 件 （40 人）	4 件 （365 人）
合計：件数 （参加人数）	3 件 （124 人）	8 件 （486 人）	15 件 （1,999 人）	10 件 （1,253 人）	17 件 （1,918 人）

カ 環境に関する全園・全校の取組

教育委員会では、「環境首都・札幌」の宣言日である6月25日の前後2週間を「さっぽろっ子環境ウイーク」期間とし、この期間中、エコスクール宣言校である全ての市立園・学校が、環境に関わる取組（以下、「エコアクション」）を重点的に見つめなおすことで、年間を通して、札幌市の幼児児童生徒に環境を守り育てようとする態度を育んでいます。今年度は、SDG s の視点で教育課程を見直し、環境について、持続可能な取組をエコアクションに位置付ける予定となっています。

(2) 「環境人材」の育成

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣【環境プラザ事業】

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等など、様々な環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣する事業で、令和4年5月1日現在、10人のアドバイザーに登録いただいています。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導者や解説者を派遣する事業で、令和4年5月1日現在、26人のリーダーに登録いただいています。

アドバイザー、リーダーの派遣期間は、例年5月1日から3月31日までですが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置のため、5月4日～7月11日及び8月28日～9月30日まで派遣事業を中止したことから、アドバイザー、リーダーともに令和2年度に引き続き、派遣件数や参加人数はコロナ禍以前の年度に比べ大きく下回りました。

今年度につきましても、コロナ禍以前の件数までの回復は難しいと予想されますが、例年利用いただいている団体を中心に依頼をいただいております。新型コロナウイルス感染症に留意しながら派遣を継続していく予定です。

なお、近年、複数のリーダーの派遣が必要となる川での水生生物観察会や幼稚園・保育園における自然体験会などの申込みが増加しており、対応可能なリーダーが不足していることから、昨年度に新規募集した結果、今年度から新たなリーダー４名を委嘱しました。今年度も、令和５年度からの新たなリーダーを募集する予定です。

【派遣実績】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
環境保全アドバイザー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	40 件 (1,530 人) <13 人>	39 件 (1,764 人) <12 人>	17 件 (304 人) <11 人>	15 件 (327 人) <11 人>
環境教育リーダー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	75 件 (2,175 人) <32 人>	57 件 (1,736 人) <31 人>	32 件 (798 人) <29 人>	36 件 (833 人) <28 人>

イ こどもエコクラブ【環境プラザ事業】

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体及びこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。

令和３年度は、環境プラザが自ら運営するこどもエコクラブを立ち上げ、「さっぽろあそエコ団」として活動を行いました。市内の川や公園、山での自然体験活動４回を含む全７回（緊急事態宣言の発令を受け、ふりかえり１回を中止）を実施し、最終回には保護者に向けた活動発表を行いました。

今年度は活動場所の変更と、後述の「さっぽろこども環境コンテスト」への出場を加え、自然体験活動４回を含む全９回の活動を実施予定です。

ウ 指導者向け研修【環境プラザ事業】

教員や保育者など、子どもたちへ伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保全活動をテーマとした講座等を実施しています。

令和3年11月にオンラインで実施した「Growing Up WILD 養成講座」では、教育関係者や児童会館職員など様々な立場の方が参加しました。当該講座はオンライン研修によりエデュケーター（一般指導者）資格の取得が可能なことから、資格取得希望者への支援とともに、同じ興味や関心を持つ層の関わり合いや学ぶ機会を創出することができました。

今年度は2回程度の実施を予定しています。

エ 環境教育・子どもワークショップの開催

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指した、「環境教育・子どもワークショップ」を、令和4年1月15日（土）及び22日（土）に、各日5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生（2日間計66人）を対象として開催しました。

ワークショップは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では現地のファシリテーターの誘導により子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換するなど、オンラインと対面をミックスして行いました。

併せて、環境教育に興味があり、ワークショップ等のスキルを身につけたい高校生・大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととし、希望する若者を対象にファシリテーター等の養成研修会を実施し、受講した13人には子どもワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいました。

実施後のアンケートで8割以上の参加者（無回答除く）が「楽しかった」「また参加したい」と回答しており、満足度の高い取り組みであったといえることから、今年度も同様のスタイルにより引き続き実施する予定です。

オ 教員に向けた研修

教育委員会では、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「環境教育へ役立つ施設の活用」や「環境

教育の基礎」など環境教育に関する専門的研修を実施し、今年度も延べ 60 人以上の教員が受講する見込みとなっています。

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実

ア 学習支援等【環境プラザ事業】

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置のため、5 月 4 日～7 月 11 日及び 8 月 2 日～9 月 30 日まで休館となりましたが、開館期間中（4 月及び 10 月～3 月）は月 1 回、「あそびバ！エコプラザ」として、ゲームや紙芝居、製作体験などを利用した環境学習の支援事業を行いました。

学校の S D G s への関心の高まりから、施設見学については、今年度すでに中学校から環境学習や S D G s をテーマとした依頼を新規で数件いただいております。環境プラザでは、そうしたニーズに即した見学プログラムを提供していく予定です。

イ 各種講座等の実施【環境プラザ事業】

令和 3 年度は、大学との連携事業としては、北海学園大学のオンライン授業の中で環境プラザの取組紹介を行ったほか、藤女子大学の授業では、エルプラザ公共 4 施設として、環境問題・消費生活・男女共同参画・市民活動の各テーマでオンライン講義を行いました。

また、環境相談スペシャル講座「ゼロカーボンシティさっぽろとわたしたちの暮らし」と題して、札幌市職員による気候変動対策行動計画や家庭向け再エネ拡大に関するオンライン講座を開催し、一般市民のほか、企業の CSR 担当者、環境分野を研究する学生など幅広い層の参加がありました。

8 月 8 日の「道民笑いの日」に開催されたライブとオンライン配信をミックスしたイベント「みんわらウィーク」では、お笑いタレントとともに環境プラザ職員が出演し、環境プラザの取組を紹介しました。

幼児親子対象の事業としては、札幌市定山溪自然の村との共催で「森のようちえん」を行いました。10月17日、1月23日には北海道大学をフィールドに秋は植物を探して集める宝探し、冬は雪で型抜き等を行いました。また、11月7・8日、2月6・7日は自然の村をフィールドに、宿泊でプログラムを行いました。

今年度は、大学との連携や森のようちえん等の事業を継続しつつ、新しい視点を取り入れた講座も行っていきたいと考えております。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

小中学生が日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成20年度から実施しています。活動の発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的としています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一堂に会してのステージ発表は困難なことから、事前に発表の様子を収録した映像を、令和4年1月8日（土）～14日（金）に開催した「環境広場さっぽろ2021バーチャルツアー」（オンライン開催）にて審査結果とともに動画配信しました。

今年度は、引き続きの新型コロナウイルス感染症対策及びコンテスト会場まで来られない団体に配慮した開催形式により行うことを検討しております。

[令和3年度発表団体] ◎：最優秀賞受賞団体 ○：優秀賞受賞団体

学校外団体の部	小学校の部	中学校の部
○旭山自然調査隊	○新川小学校	○藤女子中学校
◎栄西児童会館 「エコクラブタッピー ファーム」		
○厚別西児童会館		

審査員長	北海道大学大学院文学研究院 教授	大沼 進 氏
審査員	NPO 法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト理事長	坂本 純科 氏
審査員	札幌平岸高等学校 学校長	横関 直幸 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	菅原 祐雄

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

ア 環境プラザホームページ等【環境プラザ事業】

環境プラザでは、講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページで情報提供を行っています。

また、フェイスブックや、動画共有サイトに「エコチャン!!ー環境プラザ YouTube チャンネル」を立ち上げ、作成した動画をアップロードするといった情報発信も行っています。

【ホームページアクセス件数】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
環境プラザHP	80,680	76,950	73,648	103,999

イ 環境広場さっぽろの開催

「環境広場さっぽろ」は、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「未来を想う総合環境イベント」です。平成 30 年度、令和元年度は札幌ドームを会場に開催しました。

令和 2 年度、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、札幌ドームでの開催を見送り、札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催しました。令和 3 年度は「環境広場さっぽろ 2021 バーチャルツアー」を令和 4 年 1 月 8 日（土）～14 日（金）に開催しました（期間中来場者（アクセス数）10,993.197 企業・団体が出展）。

今年度は、「環境広場さっぽろ 2022」を、令和 4 年 7 月 30 日（土）、31 日（日）の日程で、3 年ぶりの札幌ドームでのリアル開催により実施する予定です。

ウ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み

「環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議です。環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO 法人北海道市民環境ネットワーク（通称：きたネット）が連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行っています。

また、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的に開催される会議に参加しています。

なお、ホームページ「環境☆ナビ北海道」において、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

エ 「環境教育・環境学習ガイド」の発行

「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をまとめた「環境教育・環境学習ガイド」を毎年度発行しています。

市民への広報、情報提供に活用して、各取組への市民参加を促進し、環境教育・環境学習の一層の推進を図ります。

併せて、札幌市各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を促します。